

※この資料に記載された数値やコンセプト、図面、パースなどは、景観アドバイス部会が開催された令和3年5月11日時点のものであり、その後変更となる可能性があります。

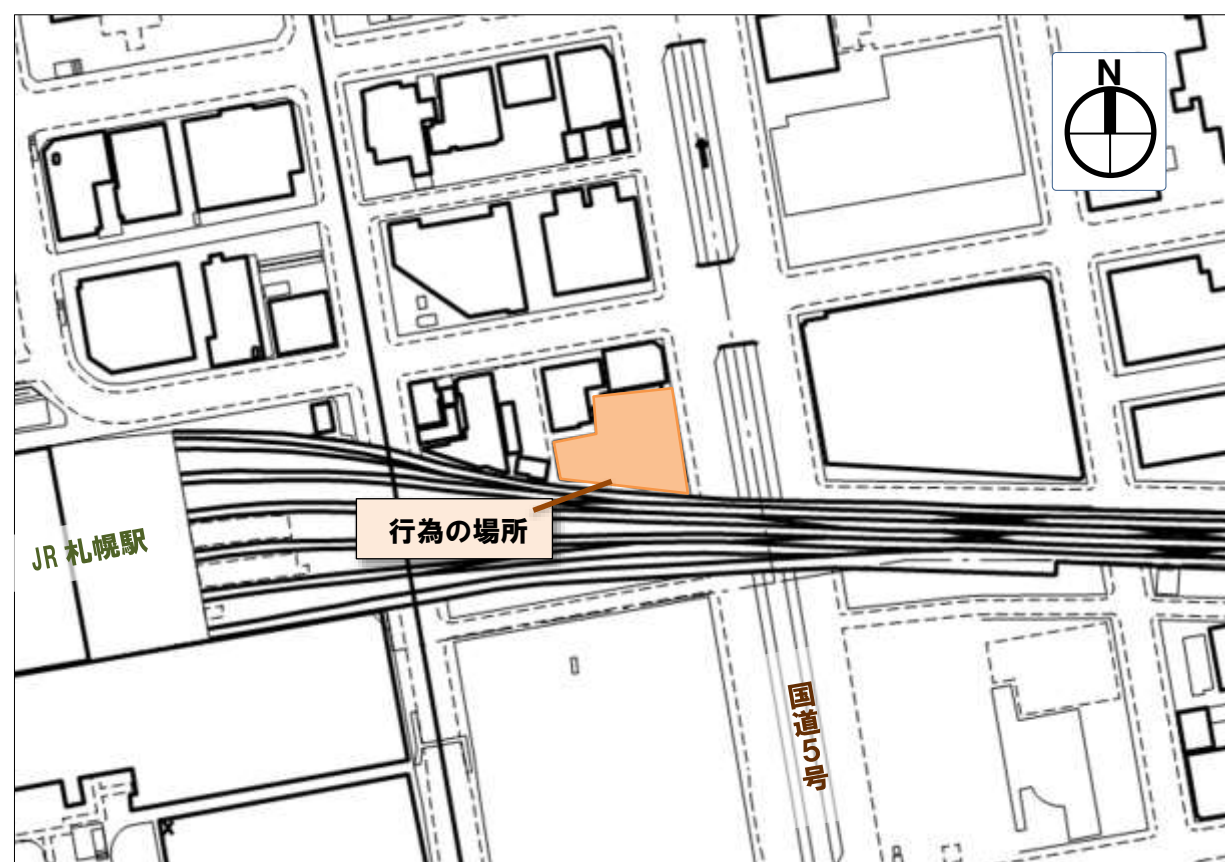
(仮称)札幌北6西1オフィス計画(設計段階)

1. 計画の概要

(1) 計画概要

申出者	東京都中央区京橋二丁目16-1	行為の場所	札幌市北区北6条西1丁目
	清水建設株式会社	行為の種別	建築物の新築
	取締役社長 井上 和幸	敷地面積	1,956.78㎡
		延べ面積	18,283㎡
設計者	東京都中央区京橋二丁目16-1	建築面積	1,524㎡
	清水建設株式会社一級建築士事務所	高さ	58.5m
	小松 辰也	主要用途	事務所

(2) 位置図



2. 計画の目標

(1) 計画の目標

- 開発の進む札幌駅北口地区の札幌駅周辺のオフィス需要への貢献
～札幌駅交流拠点先導街区の役割の一躍を担う、世界とつながるビジネス環境の創出～
- 第二次都心まちづくり計画に基づき創成川通りの交流・つながりに貢献
～つながりの軸に面して最大限開口を広げ、年間を通じて利用のできるみどり豊かな屋根付きオープンスペースの創出～

3. 都心の防災性向上に貢献

～都心強化先導エリアに立地し、一時滞留スペースや備蓄倉庫を完備した札幌市の災害活動への貢献～

(2) 建築物の基本コンセプト

「札幌のゲートオフィス」-北海道の中心、札幌都心強化先導エリアにおける人・まち・環境が調和し、未来志向のゲートオフィス-

3. 景観アドバイス部会(設計段階)における意見交換

(1) 景観アドバイス部会の概要

- ・実施回：令和3年度第1回景観アドバイス部会
- ・日時：令和3年5月11日(火)15:35~16:55
- ・会場：カナモトホール 第2会議室
- ・出席委員：岡本浩一部会長、小澤丈夫委員、窪田映子委員、松田泰明委員、森朋子委員、渡部純子委員、
- ・出席事業者：清水建設株式会社

(2) 意見交換の概要

【松田委員】歩行者の環境を重視しているということであれば、車路は歩行者を優先できるように、横断歩道部分をにぎわい・憩いエリアと同じような舗装とし、車がゆっくりと進入できるように設計する方が良いと思う。

【事業者】ご提示いただいた考え方で整理することができると思うので、そのようにしたいと思う。

【松田委員】駐輪スペースは、雑多に駐輪されてしまうことで、景観悪化につながることから、管理運営についての考えがあれば伺いたい。

【事業者】見栄えに配慮したものになるように、今後計画を詰めていきたい。

【松田委員】設計デザインだけではなく、管理運営についても大切なので、今後検討いただきたい。

【窪田委員】限られた敷地の中に、半屋外のオープンスペース(ピロティ空間)を、にぎわい用途に面して配置することに、力点を置いた提案であると説明を聞いていて感じた。高さ4.1m、奥行き8mのオープンスペースだと、天井面、床面、壁面の素材感や色、照明計画によっては、暗い印象になってしまう可能性があるため、設計を詰めていく時に留意いただきたい。また、現時点で仕上げ等について考えていることがあれば、教えてほしい。

【事業者】仕上げ等については今後の詰めていくことになるが、地域性にちなんだ材質を採用していきたい。

【窪田委員】ぜひ、人が寄りたくなるような素材感を大切にしていきたい。ピロティ空間はどうしても暗くなりがち事例が多いので、明るくなるような素材感や照明計画にご留意いただければと思う。



図1 オープンスペースのレイアウト

【渡部委員】新幹線の新駅の近くという立地条件もあり、札幌市民だけではなく旅行者も多く訪れる可能性が高いので、ピロティ空間で休憩をしつつ、周辺の情報がわかるサインが含まれることを期待する。1階のエントランス部分は、中の店舗で買ったものを飲食できる計画なのか。

【事業者】建物の利用時間内においては活用できる。

【渡部委員】訪れた人たちがストレスなくスムーズに行動できるやさしい空間とサイン計画を期待する。

【森委員】にぎわい・憩いエリアにキッチンカーがある絵(図2)があるが、車路部分以外にもう1箇所歩道の切り下げをして、キッチンカーを入れることとするのか教えてほしい。車路部分をにぎわい・憩いエリアと同じ舗装とすることを検討できることが前提なのだが、車路として利用している部分にキッチンカーを置き、店舗の位置やコワーキングスペースの位置づけを変更すると、空間が有機的につながる計画にできそうだと思うのだが、何か考えがあれば教えてほしい。

【事業者】総合設計の協議の中で、キッチンカーなどを特定の時間帯に置くことによって、にぎわい・憩いエリアの位置づけを共有してもらっている。キッチンカーを置かない時は、可動のテーブルや椅子などを置くことを予定している。キッチンカーは車路部分から入れることを想定しているので、歩道の切り下げは行わない。

【森委員】車路やコワーキングスペースにつながりが感じられるように、計画を進めていただければと思う。

【小澤委員】外装計画について、「土地と歴史への調和を図り」と「札幌駅前のゲートとして」とあるが、このあたりについてももう少し説明をいただきたい。

【事業者】土地・環境という点においては、北海道の雪や氷のきらめき感をガラスのファサードに体现させており、地域のイメージに近いもので調和を図ろうと考えている。ガラス面なので周囲の風景を映す効果があると考えている。ゲートという点においては、1点目に、新幹線などで北海道を訪れる人たちが、最初に目に入ってくることを意識している。2点目は、高機能オフィスとして世界に発信できるものとなるように、という思いがある。歴史という点においては、北国でこれまで培ってきた雪や氷のきらめき感という地域性に加えて、格子状の街区になじませていくことを考えている。

【小澤委員】景観とは、非常に公共的なもので、みんなで作り上げていくものと私は理解しており、市民の方に広く共有でき



図2 オープンスペースのイメージスケッチ



図3 南東面のイメージパース

るキーワードと、わかりやすい言葉遣いをしたうえで、建築物のカタチや環境づくりに反映できていることを客観的にわかるということが重要であると考えている。もう少し言葉を選んでいただいて、わかりやすく共有できるように、コンセプトや景観的な意味についてももう少し整理していただきたい。車路、コワーキングスペース、駐輪場などによって、景観的にどう豊かになるかストレートに考えないといけないと思っている。例えば、車路の位置がこの位置でいいのか、柱スパンやゾーニングがこれでいいのかという大きい話につながるが、そこまで考える工程のゆとりはあるか。

【事業者】柱スパンや車路の位置を変更することは、工程的に厳しいものがある。

【小澤委員】駐輪場、車路の位置がやはり気になり、にぎわいの空間がつながっていくようにできるのか、北東の角から見た時にガードの「裏感」を出さないようにできるのか、コワーキングスペースがどういう運営体制をされるのかなど、ハード面に加えてソフト面のアイデアも必要だと思う。工程の都合で変更できないところがあるのであれば、ここまではできるということも、もう少し具体的に示していただき、今の工程でできることを、ハード面とソフト面で整理するとともに、広く市民の方に景観について説明できるように今後進めていただきたいと思う。

【事業者】承知した。

【岡本委員】この建物は、新幹線駅ができた時に、新幹線の背景として見えてくるかもしれない位置である。テクスチャーがはっきりと見えてくることから、新幹線の背景を担う役割を想定していくと、景観的に重要な意味を持っている。まちの印象を担うと説明があったが、もう少し具体的にここに降り立った人物の気持ちになって考えていただくと、工夫できることがあると思う。スケジュール上難しいところもあるだろうが、ぜひ積極的に検討いただければと思う。

【松田委員】札幌の歴史性を考えた時には五番館のレンガや札幌軟石の倉庫などがあり、ガラス張りの建物はあるものの少ない。もう少し札幌市のまちづくりに貢献できることを検討していただきたい。

【渡部委員】カーテンウォールにやや違和感がある。鳥の飛行高さによっては、カーテンウォールに映った空を本物の空と勘違いし、追突例があると聞かすが、対策である程度の解決ができるとも聞く。野生の生き物を守る環境対策を期待する。にぎわい・憩いエリアは東を向いているので、午前中ぐらしか日が当たらず、寒い日だと外に出て何かをすることが考えづらい。そういった寒い日でも、そこで楽しめるイメージ作りを運営等でできると楽しい空間となると思う。